

十勝川西長いも運営協議会(北海道帯広市)

【主な品目】

長いも

【主な輸出先国・地域】

米国、台湾、シンガポール等

【輸出取組の概要】

- 国内需給の適正化と市場価格の安定を目的に、海外で評価の高い4L規格の長いもを輸出し、農家の所得向上に寄与。
- 輸出拡大に向けて、平成20年HACCP認証取得、平成28年地理的表示(GI)保護制度に登録。
- 産地間連携(十勝管内8農協)による年間安定供給体制を確立。

【輸出実績】(平成11年から輸出開始)

	輸出額(万円)	輸出量(t)	出荷時期
平成27年産	113,975	2,945	通年
平成26年産	86,888	2,621	
平成25年産	61,350	1,696	

輸出に取り組んだきっかけ

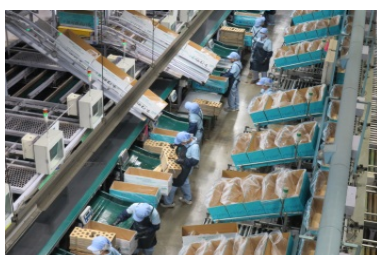
昭和50年代後半から作付面積が徐々に拡大して生産量が増加し、主要産地として年間を通じて出荷する中、豊作時の価格暴落や、太物(4L規格)はカット販売されるため規格外品並みの価格でしか販売できないなどの課題に直面するようになりました。特に平成11年は、豊作による太物の比率増加と市況の下落懸念が大きく、国内市場の価格維持と太物の販路拡大を目指して輸出に取り組むこととしました。神戸の貿易バイヤーに相談し、健康志向、薬膳ブームの台湾へ「十勝川西長いも」の試験的輸出を開始しました。

取り組む際に生じた課題

- ・ 台湾に輸出を開始した初期段階は、神戸の商社と輸出入取引実績の大きい台湾の商社に窓口を限定していましたが、販売段階において、かなり多くの中間・末端業者に裾野が広がり、品質管理ができず、大量のクレームが頻発しました。また、国内向けに出荷した長いもが台湾に転売され、品質管理が行き届かない中、「傷が発生していた、温度管理が不十分で長いもが腐っていた」といった転売先からの苦情も寄せられるなど、産地のイメージダウンに苦慮しました。
- ・ 台湾では早くから長いもが輸出されていましたが、輸出量が増加するにつれ、国内の他産地からの輸出も増加し日本各地の長いもであふれかえったことで飽和状態となり、価格競争も厳しくなっていました。このため、現地での価格下落を防ぐためにも、伸びしろがある他国への販路拡大が急務となりました。
- ・ 海外でブランド品として認知されるようになると、類似品も出回るようになり、更には、「十勝川西長いも」と謳った中国産長いもが販売されるなど偽装品も確認され、こうしたトラブルを解決する必要がありました。



HACCP認証を取得した長いも選果場全景



長いも淨選別施設での検品、箱詰作業



GIマークとHACCP認証が入った国内向け段ボール箱

生じた課題への対応

- ・ 販売ルートを生産地銘柄にこだわる中間業者に絞り込むことで、品質管理が可能な現在のルートを確認しました。また、正規ルートで輸出したことを示すため、梱包の箱を青色から、台湾と米国用を白、シンガポール用をピンクに変更するとともに、段ボールの強度を2割高め、長いものに傷が付かないよう紙の専用シートを間に挟むなど工夫を重ねました。
- ・ 米国は薬膳として長いものを好む中華系住民の人口が多い上に、台湾での「十勝川西長いも」の高評価が華僑のネットワークを通じて米国にも伝わったことから、十勝川西長いものを扱う台湾系商社の米国法人が米国向けの販路開拓を進めました。この際、安く流通できれば競合する中国産のシェアを奪えるという同商社の提案に応じ、これまで輸出していた一級品に低価格帯の若干曲がりのある商品も加えて輸出しました。
- ・ 海外での太物需要に対応するため、年間を通して太物商品を安定供給できるよう、十勝管内8農協による広域連携体制で生産に取り組み、JA帯広かわにしが一元的に集荷して厳格な選別を行い、管理、出荷するといった安定供給体制を構築しました。
- ・ 商品の安全性を向上し、品質管理を徹底する観点から、平成20年に十勝川西長いも選果場について、土ものの野菜としては世界初となる食品衛生の国際規格HACCP認証を取得しました。現在では、農協に出荷する野菜について生産履歴のデータベース化はもちろんのこと、生産現場での工程をチェックリストで管理し改善に繋げる十勝型GAP（農業生産工程管理）や、残留農薬自主検査といった十勝独自の取り組みを全ての農家が実施し、高品質、安全・安心をPRしています。
- ・ 海外での名称の不正使用にも対応するため、平成28年に地理的表示保護制度（GI）に登録しました。

対応の結果

- ・ 産地の広域化により通年販売が可能になったことや、構築した中間業者のルートから太物を安定供給することで、取引先との信頼関係を構築することができました。国内での太物販売は業務用かスーパーでのカット売りを中心で安値傾向でしたが、海外で評価の高い太物の大口需要先を確保したことで、豊作年でも国内価格の下落を抑止し、平年作で太物が高値を呼ぶようになりました。また、施設の共同利用で大幅なコストダウンが図られたことや、安定販売の実現により、作付面積が拡大するとともに、単位面積当たりの収入が向上したことで、生産者の所得向上にも貢献することができました。
- ・ 米国では、競合する中国産との価格差を縮める対策の効果で輸出の底上げに繋がりました。現在では輸出先1位だった台湾を抜き、米国が輸出の6割以上を占めるまでになりました。
- ・ 安心・安全や品質の高さが消費者に浸透したことで、「十勝川西長いも」が一定の地位を占める中、台湾をきっかけとした薬膳料理ブームがシンガポールにも波及しました。HACCP認証の取得が高い信用となって、同国の青果を集荷する商社との取引開始につながり、平成25年以降シンガポールへの輸出量が増加しました。

今後の課題・展望

海外で強まる衛生管理への対応を強化して米国での信用力を高め、安定して輸出することを目的に、食品の安全と品質を保証する米国のFMI（食品マーケティング協会）の管理する認証規格「SQF（セーフ・クオリティ・フーズ）」の認証を平成29年中に取得し、安全・安心かつ高品質な商品としてPRすることで販路を更に拡大していきます。



「輸出用4L規格」(左)と「国内用2L規格」(右)比較



海外物産展での様子
長いもジュースを来場者に提供



台湾で人気の長いもジュース
滋養強壮や夏バテ回復に

【活用した支援・施策】平成23年度強い農業づくり交付金（集出荷貯蔵施設）
平成25年度日本の食を広げるプロジェクト事業補助金

【ウェブサイト】<http://jaobihirokawanishi.jp>

【連絡先】帯広市川西農業協同組合青果部 TEL: 0155-59-2241